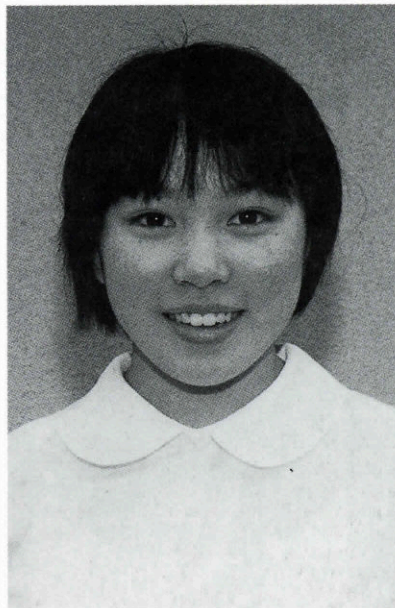


# ながとじん 長門人



## 5・6年生のじねんじよ畑

### ―連絡帳―

**山根 愛** さん  
やまね まなみ / 平成4年生  
大畑小学校6年 / 大埜区

私たちのクラスでは今、じねんじよを育てています。その育て方などを教えてくださったのは、地元に住んでいらつしやる河野精さんです。

まず、地面を耕して植える場所を作ることから始めました。次にパイプのような物に赤土をたくさん入れて種芋を植えました。その作業を私たちは泥で汚れながらも、一生懸命がんばりました。初めてじねんじよを植えたけれど、私にしてはよくできたと思いました。

今、じねんじよは、とても長いつるを伸ばしています。ちゃんと食べられる芋になるまで、もう少し時間がかかりそうです。が、とてもじょうぶで長くおい



しい芋になってくれると思います。長い芋になるまで、私たち、6年生でしっかりお世話をしていきたいです。



## いつもいつでも 「ふるさとながと・こんにちへは」

**由良野 圭** さん

ゆらの けい / 昭和48年生  
山口市在住 / 大泊区出身 / 山口県庁勤務

長門といえば、「青い海、緑と太陽の街」という都市宣言そのままの風景と、金子みすゞさんの詩のように素朴な中にも心温まる雰囲気漂ったまちという印象があります。

子どもの頃にはよく海に行って遊んだり眺めたりしていたことを思い出します。そのせいもあり海が大好きで、高校卒業後、水産系の大学へ進学しました。大学卒業後は県外で働いていたのですが、長門の青く透き通った海が忘れられず昨年Uターンを果たしました。転職にあたり周囲から反発も受けましたが、強行し再就職できたと本当によかったと思います。

そんな私は、長門に帰ると必ずかつて馴染みのあった場所を車で走ります。今や仙崎の商店街がきれいに整備され、ルネッサもできて、学生時代には想像できなかった変化です。しかし、いつも変わらぬ雰囲気はここにはあるように思います。



夏休みのキャンプ 青海島スポーツ少年団の仲間と（一番右が由良野さん）